

平成27年度 第1回鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会
個別支援部会会議録

日 時 平成27年6月9日（火） 午後3時から午後4時30分まで

場 所 鎌ヶ谷市役所本庁舎303会議室

出 席 安達啓子部会員、黒岩史郎部会員、大竹学部会員、稲垣啓之部会員、
上谷豪部会員、山根清孝部会員、加藤博樹部会員、大城翔平部会員、
櫻井誠部会員（障がい福祉課主査）

欠 席 福田弘子部会員、香取牧子部会員、吉田浩滋部会員（こども発達セン
ター分室）

関係者 佐々木美穂子氏（香取牧子部会員代理）

事務局 障がい福祉課 斉藤課長、藤嶋係長、高橋主事

公開・非公開の区分 公開

傍聴者 なし

添付資料

- ・ 式次第
- ・ 個別支援部会名簿
- ・ 鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会組織図 (資料1)
- ・ 鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会設置要綱 (資料2)
- ・ 鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会専門部会設置要綱 (資料3)
- ・ 鎌ヶ谷市の各障害者手帳所持世代別所持者 (資料4)

第1回個別支援部会会議録

【挨拶】

事務局から、次のとおり挨拶があった。

本市の自立支援協議会は、協議会の下に4つの専門部会を設けている。その一つが、本日開催されている個別支援部会だが、ほかに福祉サービス部会、権利擁護部会、発達支援部会がある。

個別支援部会については、昨年度最後に開かれた会議において、部会員の方から、他市では相談支援事業所が集まって、より専門的な観点から事例検討をしているという話があり、その意見も踏まえて、今回新たな部会員は、相談支援事業所を中心とした構成にした。これから3年間、よろしく願いたい。

【選任書交付】

本日出席いただいた10名の部会員に対し、選任書を交付した。欠席した2名の部会員には次回開催時に交付する予定である。

(任期 平成27年6月9日から平成30年3月31日まで)

【部会長、副部会長の選出】

事務局 当部会の部会長及び副部会長を選出したい。部会長・副部会長は、部会員の互選となっているが、どなたか自薦、他薦はあるか。

特に意見がなければ事務局から指名させていただいてもよいか。

(異議なし)

部会長については、鎌ヶ谷市の相談支援事業所として委託をしていて、計画相談事業所でもあるもくせい園所属の大竹部会員に願いたい。皆様いかがか。

(異議なし)

副部会長については、鎌ヶ谷市内の知的障がい者通所施設であり、昨年10月から計画相談事業所としても登録されたみちる園所属の大城部会員に願いたい。皆様いかがか。

(異議なし)

ただいま、当部会の部会長には、もくせい園所属の大竹部会員が、副部会長には、みちる園所属の大城部会員が決定したのでよろしく願いたい。

部会員の出欠について報告する。福田部会員、吉田部会員については、本日所要のため欠席である。

本日12名中10名の部会員の出席ということで、定足数である過半数を満たしていることを報告する。

なお、傍聴者については0名である。

また、つばさクリニックの香取部会員については、本日同クリニック佐々木氏が代理で出席となっている。

【事務局からの説明、報告事項】

(1) 部会の位置付けについて

事務局 個別支援部会は、昨年度まで、福祉、教育の関係者、商工会からの推薦のあった者、民生委員等で構成され、毎回困難事例を検討していたが、検討のみで終わっていたということが課題となっていた。

自立支援協議会でも、この部会の在り方について話題にあがり、個別の困難事例の検討に終始するのではなく、相談支援事業者に関すること全般、又はそれに携わる支援者が話し合える場が必要ではないかとの意見があった。このため、今回、部会員の改選に伴い、メンバーについては、市内の相談支援事業所、計画相談を行っている事業所、各種相談事業を行っている事業所を中心とした。今後もこの部会で困難事例の検討を行うこともあるかと思うが、この後の議題でテーマを検討する際は、このことも念頭に入れておいていただきたい。

会議の公開については、各部会原則公開となっているが、この個別支援部会については個人情報に触れることが多いため、原則非公開となっている。

(2) 障害者差別解消法に伴う事務局からのお願い

事務局 平成28年4月1日から施行される「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行されるにあたり、鎌ヶ谷市では、行政機関として不当な差別の取り扱いの禁止、合理的配慮の提供について、職員に周知・啓発を行う予定である。今後、対応要領やパンフレット等を作成する予定である。この作成にあたり、部会の意見等を求めることがあるかもしれないので、その際は協力をお願いしたい。

【今年度の検討テーマについて】

部会長 今年度の部会のテーマについて検討したい。皆様意見はあるか。

(各部会員からの意見)

- ・他市でいう相談支援部会（相談支援に特化し、事業所同士のネットワークができる部会）のようなものになればいいと思う。
- ・他の事業所がどのように事例をこなしているか聞きたい。
- ・困難事例の検討はもちろん大切なことだが、それだけでよいのか。
- ・各事業所が困っていることを相談できる場にしたい。
- ・事業所の体制や内容を発表しつつ、困難事例の検討をして、情報交換を行い、情報の共有や連携を深めていきたい。
- ・困難事例を皆で検討したい。
- ・二部制にして、困難事例と相談支援事業の中で困ったことを出し合ってはどうか。
- ・相談支援事業所が、計画だけ作って終わるのか、他の支援の必要性や問題に気づくか。それをそのまま、その事業所のみで支援するのか、連携する他事業所等と協力し合って支援するのか、どこまで支援するのが相談支援事業所なのか、などは地域によって違いがある。鎌ヶ谷市が、どんな方向性を目指していくのかで、各事業所の支援の在り方がここまで出た意見につながっていくと思う。
- ・計画相談をしていない事業所もあるが、そういった事業所も、相談に来た困難事例をどうしたらいいか、何か利用できるサービスはあるか等を部会で相談できればと思う。
- ・問題提起は、相談支援事業所が出すべきだと思う。

・精神障がい者にとって「ACT」の存在はとても大きい。まだ数が少ない支援が鎌ヶ谷市にあるのに、存在があまり知られていない。その活動を紹介してほしい。

(つばさクリニック佐々木部会員から「ACT」の紹介)「ACT」は、知名度が全くない。ACTとは、地域包括支援のことである。重度の精神障がい者の方を、入院でも施設でもなく、地域で支援をしている。治療ありき、医療ありきではなく、本人がどのように地域で生活したいか、というところに重点を置いている。例えば、薬を飲まずに生活したい人には、薬なしで幻聴妄想等に付き添ってそれらとの付き合い方を探す等をしている。

現在は、院長、チームリーダー(薬剤師・精神保健福祉士)、精神保健福祉士、作業療法士、看護師で構成されている。職種に関係なく、皆で利用者に関わっている。

また、現在は、ACT内で利用者を検討しているが、それを、第三者の機関で、例えばこの個別支援部会で、この事例はACTがよい、と決めてから利用することが公平だと思う。現在は、ACTを利用しなくても大丈夫そうな方もおり、そういう方で定員がいっぱいになってしまって、本来支援を受けるべき方が受けられなくなるのも困る。一緒に考えていただけるともう少し機能するように思える。

本日は、資料を用意していないので、後日改めて紹介をしたい。

・昨年の部会の会議の結果は、なぜ次に活かされなかったのか。1回の部会の会議で何件の事例を検討していたのか。また、今年は、部会の会議の結果を活かしていけるのか。

事務局 事例のケースが長期入院をしたり、解決困難で言いつばなしで終わったこともあるが、現状報告はしていた。しかし、勉強会的側面が強かった。

今年度は、現場にいる人を中心とし、連携しやすい構成にした。昨年度は、1回の部会の会議で1事例を検討し、前回の事例の現状報告を行っていた。数件の事例を1回の部会の会議で行えるのであれば、それもよいと思う。

・昨年度、検討された困難事例だが、当事業所でも以前関わっていた。その当時から見れば全く困難事例ではない。その頃の方がよほどひどい生活を送っていたと思う。こちらはそのケースの情報を持っていたのになぜ呼んでもらえなかったのか。何をやっている部会なのか分からないと思った。サービス利用計画に結びついてない事例もあるのではないかと思う。何か問題が起きてからでは遅いし、そうなる前に支援することも必要だと思う。また、支援といっても、どこまでをこの部会でやるのか。

・困難事例は、答えが出にくく、継続した支援が必要なことが多い。そこに相談支援の役割があると思うので、このメンバーで検討していけば以前よりも深い意見が出るのではないか。

・市の支援から漏れているケースもあるので、そういった事例の検討もよいのではないか。

(例) 本人は拒否しているが、家族は支援を希望している場合

計画相談を入れたいが、医療すら受けていない状態である場合

この場合、「ACT」で往診し、そこから障がい福祉サービスに繋がられるなど

・行政と相談支援事業所では、困難事例と思うケースに差があり、視点が違う。これを検証するのも面白いと思う。また、その事例に必要な支援は障害福祉サービスなのか、それ以外のサービスでも支援ができるのではないかなどの検討もよいのではないか。

部会長 今年度は、まず、各相談支援事業所や行政から困難事例を挙げてもらい、それに

について検討する方向性でよいか。また、それとあわせて、各相談支援事業所が、事業所の紹介や、困ったことや悩みを相談し合い、情報交換することでよいか。

事例を挙げる順番だが、自分の所属する事業所の体制、相談したいことなどを事務局に提出し、それを事務局で何件か選んでもらい、検討していく方向でよいか。

事例検討については、当日ではなく事前に資料をもらえると、より検討ができると思う。

黒岩部会員 次回の部会の会議では、自分が事例を挙げたい。様式については、計画相談の受付票、アセスメント票、サービス利用計画等があるが、これらの様式でよいのか、それとも一枚に内容をまとめたものがよいのか。

事務局 様式については、昨年度まで使用していた簡易な様式はあるが、任意のもので構わない。内容は、各事業所で提供できる範囲で構わない。

事業所が、早めに資料を提出できるのであれば、事前配付したい。

順番については、各会議で次回の事例を募集して決めたい。

部会長 第2回個別支援部会の会議については、あらかじめ黒岩部会員から6月中に事務局に資料を提出してもらい、7月上旬には事例として部会員に送付してもらおう。それを当日、各事業所の立場で検討し、意見を出してもらいたい。

第3回個別支援部会の会議での事例も募集したいので、6月中に各部会員から事務局へ提出できる簡易なシートを事務局から各部会員に配付できればと思う。メールアドレスが分かる事業所にはメールで送ることも可能である。

提出してもらった資料の中から事務局で選んでもらい、第2回個別支援部会の会議の時に提案し、第3回個別支援部会の会議テーマを決める。以降、同様に、次の部会の会議の内容を前回の部会の会議で決定する。

以上の内容でよろしいか。

(異議なし)

部会長 今年度の検討テーマは、以下のとおりに決定した。

- ① 各事業所・行政の困難事例を挙げて検討（選定は事務局が行う。）
- ② 各事業所の紹介、相談等の情報交換

【開催日時について】

事務局 今年度の部会の会議の開催日程について説明したい。昨年度までは、部会の会議終了時に開催日時を部会員と相談して決定するというやり方であったが、このやり方では、年間スケジュールが立てにくい、会場の確保の問題等があったので、今年度は、事務局案として、本日を含めて全5回で設定したものを提示させていただいた。なお、開催時間はいずれも午後3時からである。

あくまで事務局案なので、開催回数、時間帯等に関し、皆様にご検討いただきたい。

部会長 部会員の皆様から何か意見はあるか。

(意見なし)

では、今年度はこの日程で部会を行うが、変更も可能なので、その場合は相談したい。

次回の部会の開催日時は平成27年7月29日（水）午後3時からとなった。以上で本日の議題はすべて終了する。

以上

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成27年7月17日

氏名 加藤 博樹 _____

氏名 櫻井 誠 _____